

# 鹿沼市堆肥化センター発酵装置等機械選定 簡易公募型プロポーザル見積価格算定条件

## 1 価格提案書に記載する見積価格の算定条件

- (1)使用する通貨は日本円とする。
- (2)見積価格は一次発酵施設と二次発酵施設の堆肥製造システムの総額とする。  
(施工費を含むこと。)
- (3)見積価格はイニシャルコストとランニングコストそれぞれの総額を示すこととする。
- (4)イニシャルコストは機器費、施工費、諸経費の内訳を示し、ランニングコストは機器設置後7年間の消耗部品代や電気料等の内訳を示すこと。7年間の内に本体の更新を要するときは、イニシャルコストに計上すること。
- (5)ランニングコストに使用する電気代においては、基本料金を1,450円/kw・月、使用料金を19,100円/kW・hとして計算すること。
- (6)イニシャルコスト、ランニングコスト算定における単価については、令和8年4月現在の価格を使用すること。
- (7)見積価格は消費税を含まないものとする。

## 2 施設の性能

### (1) 製品品質

項目	製品品質条件（目標値）
水分	30%

※肥料登録に必要な基準を満たすものとする。

### (2) 公害防止基準

性能保証値として、関係法令における基準を満足すること。

### (3) 排水

排水は発生しない構造とすること。

## 3 堆肥製造システムの選定条件

各発酵施設で必要とする装置は以下のものとする。

### 【一次発酵施設】

- ・方 式：ロータリ式
- ・必要装置：①ロータリー攪拌機（台数は2台以上とすること。）  
②通気用ブロワ（一次発酵槽の発酵促進用。）  
③脱臭設備（一次発酵槽内の臭気を吸い上げて木くずで吸着する方式とすること。）

④レーン数は2レーン以上とする。

#### 【二次発酵施設】

- ・方 式：ローダーを用いて切返し・攪拌
- ・必要装置：通気用ブロワ（二次発酵槽の発酵促進用。）

### 3 処理能力

- ・一日あたりの処理能力は、表1に記載された家畜排せつ物を混合したものを処理できるものとする。ただし家畜排せつ物については、事前に表1中の水分率まで乾燥させてあるものとする。

表1 1日当たりの家畜排せつ物処理量内訳

畜種	現物量(kg)	乾物量(kg)	水分量(kg)	水分率(%)
乳用牛糞・牛尿	25,970	7,791	18,179	70.0%
肉用牛糞	5,440	1,632	3,808	70.0%
豚糞	1,280	384	896	70.0%
鶏糞	3,680	1,288	2,392	65.0%
合計	36,370	11,095	25,275	69.5%

- ・家畜排せつ物の処理にあたっては、粉碎モミガラ、オガクズ、戻し堆肥を使用できる。ただし使用できる上限は表2に示した数量までとする。

表2 1日あたりに使用できる副資材量

副資材	1日に使用できる上限(kg)	水分率(%)
粉碎モミガラ	2,497	8.3
オガクズ	67	34.2
戻し堆肥	必要量	38.1

#### 【その他の条件】

- ・配布資料の「処理方法の流れ」中の区画Aには一次発酵施設及び脱臭設備、区画Bには二次発酵施設を提案し、堆肥化センターの敷地内に収まるようにすること。
- ・「処理方法の流れ」に示した主要な作業動線においてはホイールローダー（全長6,530mm、全幅（バケット幅2,480mm）、全高3,210mm）同士がすれ違うことができる間隔を確保すること。